

さんごう

発展のための

だつ 「脱」

令和3年度予算と主な事業

昨年度は「新型コロナ」の影響により、あらゆる面で改革を強いられた1年でした。三郷町では、この変革に対応し「脱炭素」「脱縦割り」「脱アナログ」を柱として「脱コロナ」を目指します。そしてSDGs：未来都市に選定を受けた自治体として“誰一人取り残さない”社会の実現に向けた施策を実施します。

全世代・全員活躍型

「生涯活躍のまち」さんごう

◆令和3年度予算の主な特徴

脱炭素 ― SDGsの目標では2030年に向けて、持続可能な社会の実現を目指し、国の掲げたCO₂排出量を2013年度比40%以上の削減を目指しています。そんな中、三郷町では実質CO₂排出量をゼロにするゼロカーボンシティ宣言を行いました（※P4参照）。また、実現に向け、事業用施設のZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）化を促進。工事費の一部を補助する「ZEB普及促進補助金」を創設しました。「グリーン社会」

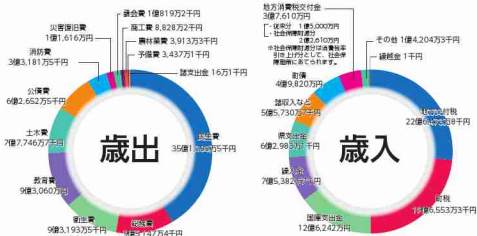
脱縦割り ― 障がいや介護、子ども、生活貧困など、さまざまな分野の課題に対する窓口は複雑化しています。この複雑化した支援体制を一体的、包括的に行うため縦割り行政を打破し「重層的支援体制整備事業」を推進、共生社会を目指します。「共生社会」

脱アナログ ― 国はデジタル化推進のため、「デジタル庁」の設立が進められています。三郷町でも、以前から進めていた三郷町「スマートシティ」構想を軸に、デジタル化を推進し、業務効率化で得られる削減時間を住民サービス向上に努めます。「デジタル社会」

脱コロナ ― 最重要課題である新型コロナウイルスの感染防止に向け、全庁体制でワケチンの障壁に臨みます。

その他、防災対策として避難所運営マニュアルの作成、防災行政無線の機器更新、西部保育園の建替事業、ICT環境を活用した小中一貫教育の推進などの教育施策、日本遺産認定と重話のまちを起爆剤とした地域活性化など、全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」を目指します。

予算84億5,000万円の内訳



財政用語

- 民生費 → 各種福祉サービスなどに使うお金。
 総務費 → 町の総括的な管理経費や自治振興などに使うお金。
 衛生費 → ごみ処理などに使うお金。
 教育費 → 幼稚園・学校の運営や教育の振興のために使うお金。
 土木費 → 道路整備などに使うお金。
 消防費 → 消防団運営、災害物資の備蓄などに使うお金。
 議会費 → 議会運営のために使うお金。
 公債費 → 借りたお金の返済などに使うお金。
 災害復旧費 → 災害によって生じた被害の復旧に伴うお金。

使用料など

諸収入	2億7,788万2千円
使用料・手数料	1億9,713万8千円
分担金・負担金	7,008万7千円
財産収入	1,219万5千円
寄附金	5千円

その他

地方譲与税	4,973万円
地方特例交付金	3,309万5千円
その他交付金	5,921万8千円

区 分		予 算 額	対前年増減比(%)
一	般 会 計	84億5,000万円	1.8
特別会計内訳	住宅新築資金等貸付事業	864万4千円	▲21.7
	し尿浄化槽管理	298万6千円	▲0.1
	国民健康保険	22億6,684万4千円	0.7
	介護保険	22億2,870万5千円	13.1
	後期高齢者医療	4億19万5千円	1.1